

(別添 3)

【岐阜県垂井町】

校務D X計画

1. 校務支援システムの導入とクラウド化

垂井町では、岐阜県統合型校務支援システムを導入し、教員の働き方改革を推進するとともに、令和8年度には、県下統一での更新計画があることから、校務系サーバのクラウド化を検討する。これにより、教員の業務負担軽減と業務の効率化を図り、文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」を踏まえ、クラウド活用による業務の標準化・効率化を進め、データ連携の強化を図る。

2. ゼロトラストモデルによるセキュリティ強化

今後は、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御を採用し、セキュリティ対策を強化することにより、ロケーションフリーで校務系ネットワークへ安全に接続できる環境の整備について、調査・研究を行う。また、文部科学省が推進する「教育データ利活用ロードマップ」を考慮し、安全で効率的なデータ管理を実現する。

3. ペーパーレス化の推進

1人1台端末の導入後、事業支援ソフトウェアや学習eポータルを活用し、児童生徒や保護者との連絡手段として「スマート連絡帳」を利用し、連絡の迅速化及びペーパーレス化を推進する。また、職員会議や学校間の会議資料もタブレット端末で配布し、さらなるペーパーレス化を推進する。

4. 押印・FAXの見直し

「GIGAスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づき、押印・署名が必要な書類の必要性を再検討し、不要な押印・署名を廃止することにより、校務D Xを阻害する要因を解消する。また、FAXについても、緊急連絡やネットワーク障害時以外は原則廃止し、電子メール等の代替手段を推進するとともに、文部科学省が策定する「学校現場における業務改善のためのガイドライン」に沿って、さらなる業務の効率化を進める。

5. 校務におけるRPA・生成AIの活用

リーディングD Xスクールの生成AIパイロット校の事例を参考にしながら、定常業務の自動化や校務の効率化を進める。また、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用し、事務作業の負担軽減を目指す。さらに、教育現場での生成AI活用に関する効果的な活用方法を模索する。